

小豆島町学校ICTレポート

iPadがやってきました

○小豆島町の学習者用端末は「iPad」

今回のGIGAスクール事業は全国ほとんどの地方自治体で行われています。各自治体の調達状況の調べによると、Chromebook、Windows、iPadのいずれかを学習者用端末として導入していることがわかりました。小豆島町でもChromebook、Windows、iPadを比較検討したうえで、iPadを採用しました。決め手は何だったのでしょうか。

3種類の学習者用端末について、それぞれのアピールポイントを整理すると、「端末管理のしやすさ」であればChromebook、「過去の資産を生かす」であればWindows、「直感的な使いやすさ」であればiPadとなります。iPadを選んだ理由は、児童生徒や先生がすぐに使い方を覚えられるという期待からです。

両手で持つサイズで画面を直接触って操作するタブレットは、iPadが世界初の製品です。iPadの箱には、分厚い取扱説明書が入っていません。ただの1枚も操作方法を説明したものが無いのです。これは開発しているApple社の自信の現れでもあります。

iPadは「まず触ってみる」という敷居は低いのですが、授業で使えるようにするためには、いろいろな工夫が必要になります。次回は、iPadを授業で使うための先生の奮闘をお伝えする予定です。



○専用キーボード

学習者用端末として、キーボードからの文字入力の練習ができるように、iPadにはすべてキーボードがセットになっています。今回iPadと同時に導入したキーボードは使い方に合わせて、5つの形に変形できます。どのような形にできるのか、手元に届いたら、試してみてください。

また、キーボードは本体ケースを兼ねています。重さはiPad本体と合わせると約1.1kgになりますが、これは落としても平気なように頑丈にできているためです。



○iPadが学校にやってきました

2月15日から17日にかけて、小豆島町の小学校と中学校にiPadが納品されました。現在、子どもたちや先生の手にとってすぐに使えるように、アプリのインストールなどの準備を進めています。もうすぐ、みなさんの手に届きます。



小豆島町の目標

全児童生徒が1日1時間はiPadを使った授業を受ける